



代表取締役
篠原 幸治

戦前から続く特殊塗料開発・製造・販売会社である江戸川合成（株）を営む父の元に生まれる。学生時代はアメリカンフットボールに熱中し、大学卒業後は大手銀行にて4年ほど勤務。ものづくりへの想いから家業を継ぐことを決意し、現在は同社の3代目社長として会社の舵取りを担う。

世界的企業も品質を認めた ゼロベースからの特殊塗料開発

特殊塗料の開発を手がけている江戸川合成（株）。大手企業が主力製品として採用するほどの“機能性材料”をつくりあげた背景には、篠原社長の持つ経営理念が強く影響を及ぼしている。インタビューを務める原田さんとの対談を通じて、社長の考えに迫った。

勝ち取った大きな仕事

原田 篠原社長は江戸川合成（株）の3代目でいらっしゃるのでしょうか。社長は最初からこの会社を継がれる意志をお持ちだったのでしょうか。

篠原 正直な話として、若い頃は全く興味がありませんでした。大学を卒業した後は大手の銀行に入行し、経験を積んでいました。

原田 家業に戻られたことには、何かきっかけがあったのでしょうか。

篠原 「ものづくりをやりたい」と思ったことですね。自分の会社のマークが入った商品を作り、売ってみたいという考えが次第に強くなってきたのです。ちょうど会社が現在の埼玉県東松山市に

移転するというタイミングもあったことから、1996年に銀行を退行して家業に入りました。

原田 そして現在は社長としてご活躍されているわけですね。御社のお仕事はどういったものになるのですか。

篠原 一言で言いますと、工業用の特殊塗料メーカーです。大手のメーカーで対応できないような塗料をゼロベースで開発・販売しています。現在の主力製品になるのが、電磁波シールド塗料「エレアース EMI」です。

原田 電磁波シールド塗料とは、具体的にはどのような所に使われるものなのでしょう。

篠原 電子機器、主にカメラなどの光学機器の内部に使用します。カメラは当然

撮影に使用しますが、被写体や環境によっては外部の電磁波の影響を受け、写真にノイズが入ってしまうことがあります。それを防止するのが電磁波シールド塗料でして、弊社の製品は世界的な光学機器メーカーのプレゼンを勝ち抜き、製品に採用して頂いております。

原田 それはすごい。しかしプレゼンには当然、大手塗料メーカーも参加してきたことでしょうか。規模で劣る御社の製品が採用された要因はなんだったのでしょうか。

篠原 大手企業は得てして大きなマーケットを相手に仕事をしていますから、どうしてもユーザーそれぞれのニーズにピンポイントで合わせた開発をしづらい環境にあります。その点我々は、目の前のお客様のご要望に対してダイレクトに反応することが可能。その差が、採用につながったのだと思います。

とはいえ、お客様の求めるクオリティはとてつもなく高かった。開発際には何百回と失敗を繰り返しながら、全社一丸となってこの案件に取り組みました。ですから受注を頂けた時は、自然と涙がこみ上げてきました。

原田 まさに社長をはじめとする皆さんのアイデアと執念が結実した瞬間、というわけですね。

篠原 塗料の分野においては、会社の知名度云々よりも実力で評価をして頂ける部分が往々にしてあります。一生懸命やれば中小企業でも結果を出せる、ということを感じられた、いい機会でしたね。



受け継がれてきた理念

原田 現在のような「特殊なものを1からつくる」という会社の方針は、社長独自のものなのでしょうか。

篠原 私個人のものでもありますが、先代、先々代から受け継いだものでもあります。小さな会社でしたから、敷地もない、研究設備も十分ではない、人手も足りない、リソースはないいづくでした。しかしその中で生き残っていかなくてはいけない。そう考えたとき、とるべき道は独自性。大手企業のやらないようなニッチな仕事に活路を見出していったのです。

原田 同じ仕事をしていては、母体の大きな方が絶対に有利ですからね。

篠原 おっしゃる通りです。同じ土俵で競うと最終的に価格勝負になって、それでは大手企業に勝てるわけがありません。それに、ただ安いものを…というだけでは、はっきり言って面白くないですからね。私が仕事に求めているのは、何よりも「ワクワク感」。その意味で、先にお話ししたカメラ用の特殊塗料開発の仕事などは、本当に楽しかったです。2012年からは別の大手メーカーさんの製品にも弊社の電磁波シールド塗料の採用が決まったんですよ。

また、会社の認知度を上げるために、以前からホームページには力を入れてきました。最近では、Webからの問い合わせも増えてきましたよ。

原田 御社の今後ますますの飛躍が、素



人の私にも予想できるくらいですよ。では、社長の考える会社のこれからについて伺いたいと思います。直近の目標などはございますか。

篠原 弊社は東日本大震災の際、直接的な被害こそなかったものの資材不足や輪番停電などで大きな影響を受けました。そこで考えているのが、拠点を複数持つこと。現在の拠点はこの場所だけですが、それでは有事の際に会社活動が全て止まってしまい、ひいては会社の存続問題にもなってきます。それを防ぐためにも1~2年を目処に新たな拠点、特に今後のマーケットを踏まえて東南アジアや中国への進出を計画しています。

原田 最後に、篠原社長が持つ、会社づくりにおける想いを聞かせてください。

篠原 私もそうですが、人は誰しも幸せになるために仕事を頑張るのだと思っています。そこで今は「どうやったらみんなが幸せになれるか」ということをよく考えていますね。「みんな」というのは私だけでなく家族、従業員とその家族、協力会社の方々、そしてお客様。一人ひとりの価値観は違いますが、その全員が幸せになれるような会社づくりを目指します。

Guest Comment>>

原田 龍二（俳優）



東日本大震災の際には「我々ができることは経済活動を止めないことだ」と檄を飛ばし、一丸となって非常事態を乗り切ったそうです。そんな御社の技術力とスタッフの結束は、これからも必ずや大きな仕事を成し遂げてくれることなのでしょう。世界中に商品を供給されるであろう御社の行く先が、私もとても楽しみです！

Company Data>>



江戸川合成株式会社

〒355-0071
埼玉県東松山市新郷 84-2
TEL 0493-26-0781 / FAX 0493-26-0786
URL <http://www.edog.co.jp/>